

令和3年度（2021年度）

京都市立芸術大学 美術学部

入学試験問題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目 次

描写	1
描写対象物（画像）	2
色彩	3
色彩解答用材料（画像）	4
立体	5
立体解答用材料（画像）	8
小論文	9
出題の意図，評価のポイント，受験生へのメッセージ （描写・色彩・立体・小論文）	13

2021年度 実技試験問題

科目 描写

時間 9時00分～13時00分

与えられた紙袋、組み立て式透明ケース、りんご、玉ねぎを
台紙上に配置し、鉛筆で描写しなさい。

●条 件

1. 与えられたすべての対象物を描写すること。
2. 対象物は切る、破るなど、破損をとまなう加工をしないこと。
3. 組み立て式透明ケースは、試験開始後に監督者の指示に従って組み立てること。
ただし、ケースの開閉は自由とする。

【支給されるもの】

紙袋1枚、組み立て式透明ケース1個、りんご1個、玉ねぎ1個
解答用紙1枚、台紙1枚、カラーカード1枚

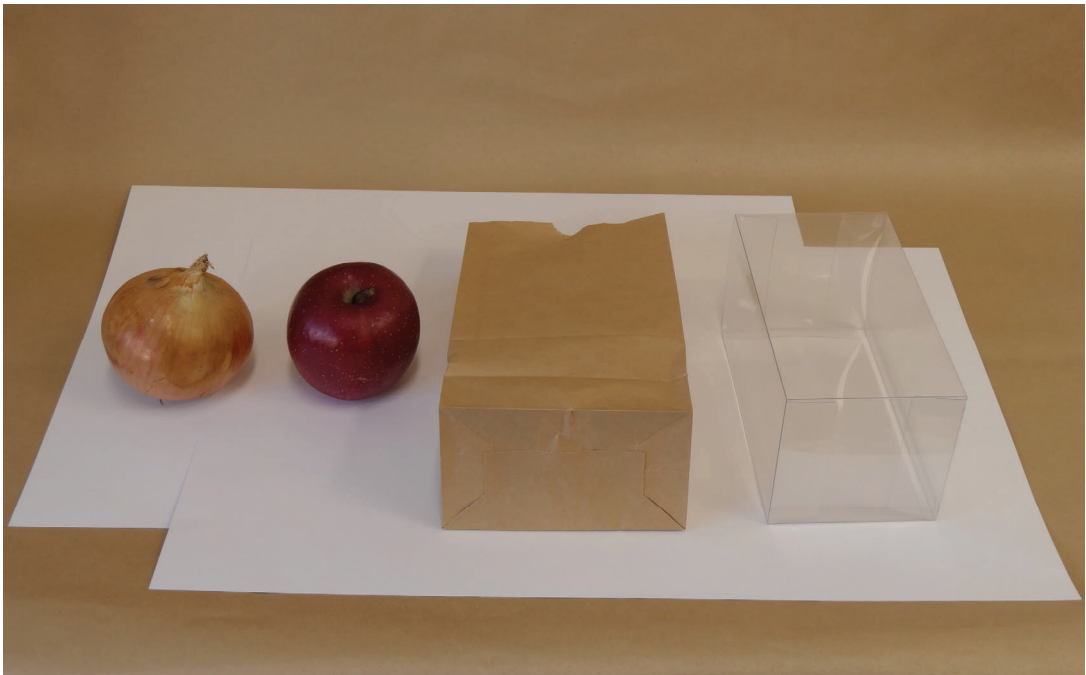
【使用してよいもの】

カルトン、カルトン用クリップ、鉛筆（色鉛筆は除く）、
消しゴム（練り消しゴムを含む）、羽ぼうき（又はダスティングブラシ）、
カッターナイフ（鉛筆削り用）

【注意】

1. 解答(作業)は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
2. 忘れた用具の貸し出しはしません。
3. 試験終了15分前に、指示に従いカラーカードを解答作品に貼りつけること。
4. 解答用紙は縦横、裏表どちらを使用しても構いません。
5. 解答用紙と台紙は同じものです。どちらを解答用紙にしてもかまいません。

【描写：対象物】



2021年度 実技試験問題

科目 色彩

時間 14時50分～17時50分

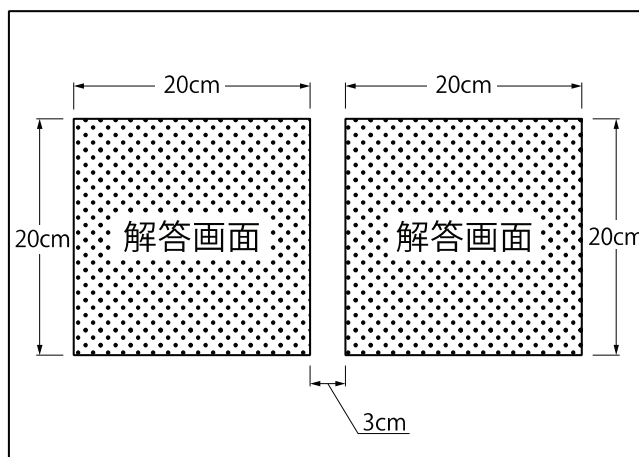
テーマ「対照」

下記の条件に従って色彩表現をなさい。

※「対照」 照らし合わせること。くらべ合わせること。見くらべること。

●条 件

1. 解答用紙は、横画面とし、表裏どちらを使っても良い。
2. 右図に示すように、解答用紙の中央に二つの正方形（20cm×20cm）を設け、それらを解答画面とする。二つの解答画面の間隔は3cm 離すこと。
3. 円形の紙は、はさみを使用し2枚に切り分ける。それ以外の加工はしないこと。
 - 切り分けた円形の紙は、二つの解答画面の上に、それぞれ一枚ずつ貼ること。
 - 切り分けた円形の紙は、解答画面から浮いたり、めくれたり、はみ出して貼らないこと。
 - 切り分けた円形の紙には彩色しないこと。
4. それぞれの解答画面内は、線で分割し、分割された面は1色だけで彩色し、色の濃淡を用いずにベタ塗りのみとする。
5. 隣接する面同士は、同色にならないようにする。
6. 解答画面（切り分けた円形の紙以外）は全て彩色すること。
7. 余白部分には彩色しないこと。



【支給されるもの】

画用紙 大(解答用) 1枚、 円形の紙(貼り付け用) 1枚、画用紙 小(試し塗り用) 1枚、
A4 上質紙(構想用) 3枚、 のり 1個、 カラーカード 1枚

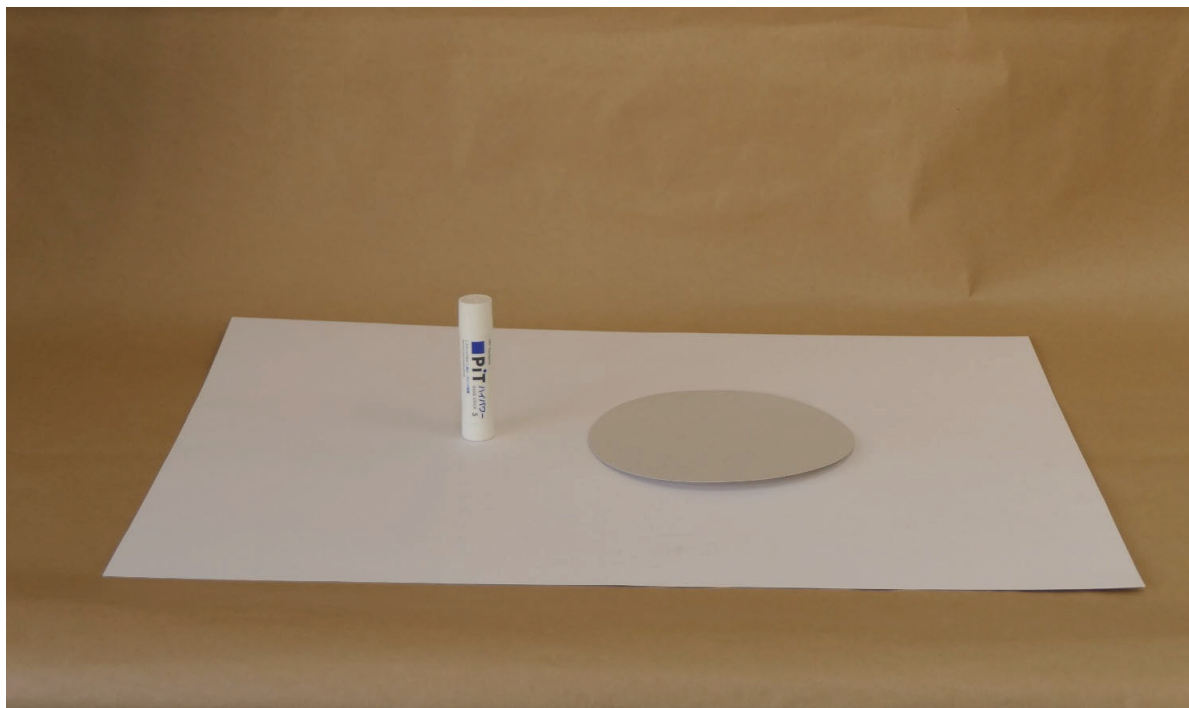
【使用してよいもの】

不透明水彩絵具、直定規(60cm 以内、目盛付き)、三角定規(30cm のもの 1組)、分度器、コンパス、カッターナイフ、はさみ、鉛筆、消しゴム（練り消しゴムを含む）、筆、筆洗、パレット(又は絵具皿)、カルトン(56cm×40cm 以上)、カルトン用クリップ、羽ぼうき(又はダustingブラシ)、雑巾

【注意】

1. 解答（作業）は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
2. 彩色作業はできるだけカルトンの上で行うこと。
3. 原則、忘れた用具の貸し出しはしません。
4. 試験終了 15 分前に、指示に従いカラーカードを解答作品に貼りつけること。

【色彩：解答用材料】



2021年度 実技試験問題

科目 立体

時間 9時00分～12時00分

与えられた白・黒・グレー・銀の厚紙を材料に、「陰影」をテーマとして、下記条件に基づいて立体表現しなさい。

●条 件

1. 解答作品には解答用材料として白・黒・グレー・銀の厚紙を使用しなさい。接着固定材料として木工用速乾接着剤、仮止め用紙粘着テープのみを使用しなさい。
2. 支給された解答用材料は全種類必ず使用すること。ただし材料はすべて使いきらなくてもよい。
3. 解答作品は解答用台の上に設置すること。
4. 仮止め用紙粘着テープはすべて外すこと。
5. 解答作品は解答用台（35cm×35cm）をはみ出さず、また高さ 35cm からはみ出さないこと。
6. 解答用台は作品を接着・固定する以外は加工しないこと。また、解答用台および解答作品には描画・着色はしてはいけません。
7. 試験終了後、解答作品に触れてはいけません。各自移動用カバーをして、解答作品を持ち体育館の解答提出場所まで移動します。解答作品は持ち運びに耐えるように十分な強度を持たせ、解答用台にしっかりと接着・固定すること。
8. カラーカードは、試験終了前に、監督者の指示に従い解答用台の右端に貼ります。

【支給されるもの】

解答用材料 : 白・グレー・黒厚紙各 2 枚ずつ、銀厚紙 1 枚
解答用台 : 茶色段ボール 1 枚 (35cm×35cm)
移動用カバー : 茶色段ボール製箱 1 個、カバー固定用テープ 2 枚
制作支援用品 : 灰色ボール紙 1 枚 (作業用)、上質紙 3 枚 (アイデアスケッチ用)
接着材料 : 木工用速乾接着剤 1 個、仮止め用紙粘着テープ 1 巻
カラーカード 1 枚

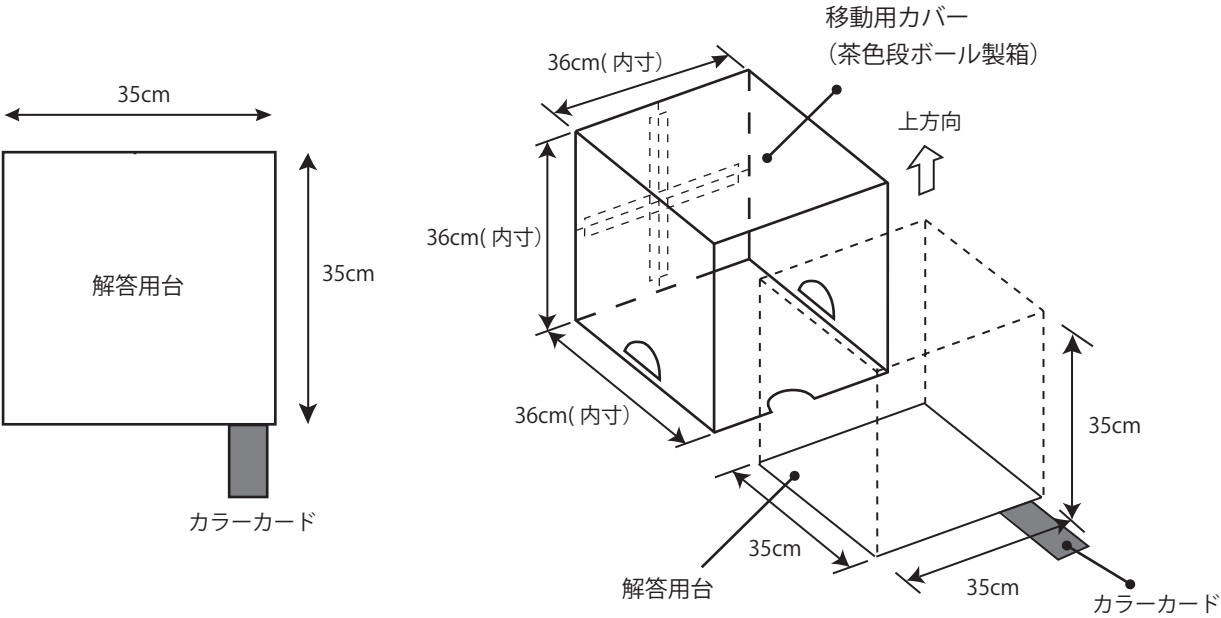
【使用してよいもの】

上記支給された接着材料及び下記の立体受験用具
鉛筆、消しゴム (練り消しゴムを含む)、カッターナイフ、ボールペン、のり、はさみ、直定規 (60cm 以内、目盛付き)、三角定規 (30cm のもの 1 組)、分度器、コンパス、粘土へら、雑巾、ラジオペンチ (刃付のもの)

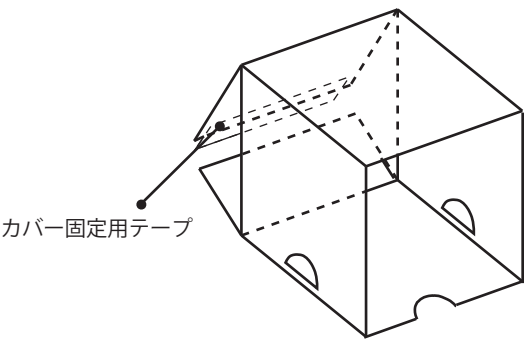
【注意】

1. 解答 (作業) は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
2. 忘れた用具の貸し出しはしません。
3. 試験終了 15 分前に、指示に従いカラーカードを解答作品に貼りつけること。
4. 解答作品には、解答用材料として支給されるもの以外は使用しないこと。
5. 上質紙 3 枚は、アイデアスケッチ用として使用すること。
6. 試験終了後に移動用カバーを被せます。移動後、解答提出場所において指示に従い外すこと。
7. 作業は支給された灰色ボール紙の上で行うこと。
8. 怪我のないように慎重に作業すること。

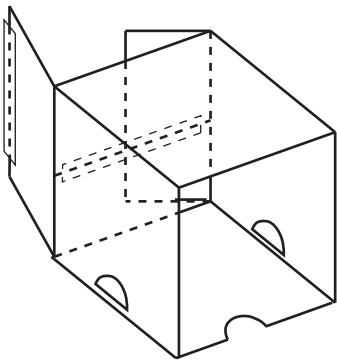
移動用カバー 組み立て説明



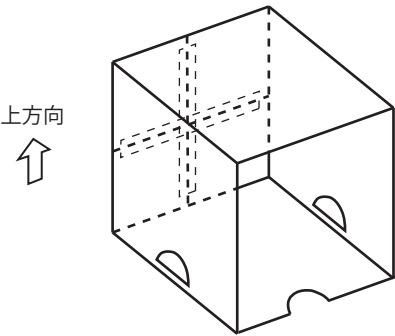
移動用カバー（茶色段ボール製箱）組み立て順序 ① ② ③



- ① フタは上下を先に閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る

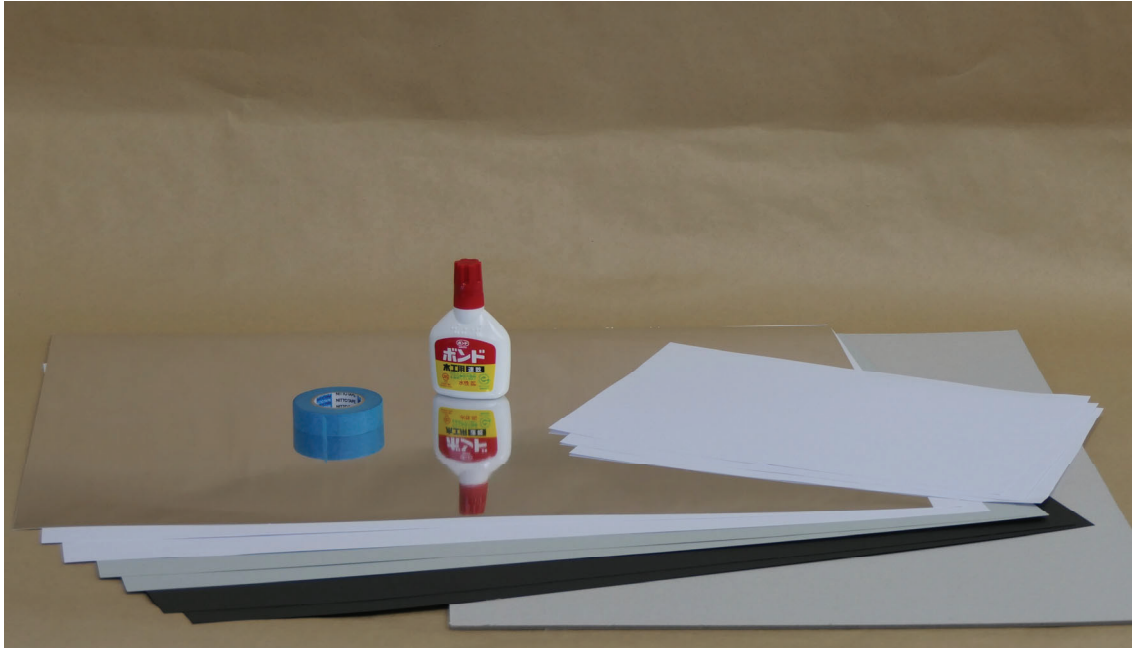


- ② 左右を閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る



- ③ 移動用カバー完成

【立体：解答用材料】



二〇二一年度 総合芸術学科入学試験問題

科目 小論文(二〇〇点満点)

時間 十四時五〇分～十六時五〇分

別紙の問題文は、鷺田清一「見えないものを見る」(『想像のレッスン』筑摩書房)から抜き出したものである。この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

設問 1

★～★までの内容を二〇〇字以内で要約しなさい。(配点五〇点)

設問 2

この文章は二〇〇三年に書かれたものですが、傍線1「見えているのに見えていないもの」とは今日の社会においてどういうものか、具体的な事例を挙げ、その内容を述べなさい。(配点六〇点)

設問 3

傍線2の「科学」を「芸術」に置き換えれば、「芸術的探究」という言葉になります。あなた自身が考える芸術的探究について述べなさい。(配点九〇点)

(別紙は全三ページです。)

《注意》

- ・答案用紙に受験番号・氏名をボールペンで記入してください。
- ・解答はすべて配付された答案用紙に記入してください。
- ・答案用紙は、表「おもて」面だけを使用し、裏面は使用しないでください。
- ・答案用紙は横書きで使用してください。
- ・設問3の解答には、最初に「設問3」と明記してください。
- ・設問2および3の解答欄が不足する時は、追加の答案用紙を配付しますので、試験監督に申し出てください。その場合、追加の答案用紙にも受験番号と氏名を明記し、一枚目の答案用紙の最後に「二枚目に続く」と書いてください。さらに答案用紙を追加した時も「三枚目に続く」と記すなど、以下同様にしてください。

京都市立芸術大学美術学部

「みえてはいるが誰れもみていないものをみえるようにするのが、詩だ」。

これは、詩人の長田弘が一九七三年に『アウシュビッツへの旅』のなかに書きつけた言葉だ。これは同時に哲学の定義でもあると、わたしはおもう。哲学という言葉が硬ければ、じぶんが生きているその時代を考えることの定義と言ってもよい。そういえば、観念論の代名詞のようにいわれるあのヘーゲルも『法の哲学』のなかにこんな文章を書きつけていた。

「だれでももともその時代の息子であるが、哲学もまた、その時代を思想のうちにとらえたものである」、と。

傍線¹

わたしたちにいま何が見えているのだろう。見えているのに見えていないものとは何か。見えているのに見えていないものを見えるようにするとはどういうことなのか。

いま、わたしたちの視野はどんなふうになっているのだろう。時代の何を見ているのか、何が見えているのか。

★時代の事実というものをわたしたちは新聞やテレビ報道で知る。イラクのこと、北朝鮮のこと、米国のこと、そして永田町のこと。そして世間話の種にする。ときに泡を吹かせて。だが、それを目撃したひとはだれもない。ましてやそれと同じときに起こっている別の出来事はほとんど知らない。たとえばこの同じ時代（二〇〇三年時点）に米国で起こっているイラク攻撃反対運動の大きなうねりについて。それを見ても見ぬふりをする評論家も交えて、テレビ報道じたいがひとつの世間話になっている。政治は、世間話を織り重ねるといふかたちでしかわたしたちの日常に届かない。そしてそれは話題として消費され、ほとぼりが冷めるとすぐに忘れられる。

世間話をひとしきりしたあと、われに帰る。腹の虫養いにバナナを一本、口にする。このバナナはどこ産かとふとおもうこともないではない。が、思いはそこで止まる。値段のことはおもっても、なぜこんなに安いのか、だれがそれを決めているのか、だれがどこでどのようにして栽培しているのかは、たぶんだれも知らない。知ろうとしない。バナナはこういう存在としてわたしたちの社会に届けられているのか、それを見えるバナナのなかに見ようとするひとは少ない。

フィリピンのミンダナオ島から日本へのこのありふれた食物の経路をたどるなかで、米国を本拠とする多国籍企業の利権、いくら栽培しても借金漬けから逃れられない農園労働力の搾取の構造、さらにはフィリピンの戦後社会の展開や日本国家のアジア植民の歴史にまで推理を進め、東アジアをめぐる現代史の一側面を描ききった仕事がかつてあった。鶴見良行の『バナナと日本人』（岩波新書）だ。が、この、じぶんの視野を世界へと向けてこじ開ける仕事は十分に受け継がれていない。それどころか、視野はますます縮こまってきている。

生老病死、つまり生きものとしてのじぶんの基本的な私たちもまた見えにくくなっ

ている。出産の情景、死後の遺体処理をつぶさに見たことがわたしにはない。からだの不具合の診断・治療は医療機関に、父の介護は施設に頼ってきた。魚をじぶんであくさばくことができない。排泄物の処理過程についても知らない。そういうば、他人のうんこを見たことがない子どもが増えているとも耳にする。わたしたちはじぶんの身体さえよくは知らない、まかなえない、と言わざるをえなくなっている。★
わたしたちはいつのまにこんなに無力になってしまったのだろう。いつのまにこんなに視力が落ちてしまったのだろう。

一時期、若いひとたちのあいだで、「見えちゃってる」「なんかもう済んだ感じ」といった言葉が流行ったことがある。大人たちを見ていて、人生のパターンがその終わり方までぜんぶ見えている、もう新しい生き方なんてない、といった想いがつのってきたのだろう。何をしてても結局は変わらないという無力な想いが。けれどもほんとうにぜんぶ「見えちゃって」いたのか。むしろ、見えているのに見ることはできない、その焦燥にじりじりしての言葉だったのではないのか。

だれもが、よほど眼をこらさないことには、意識的に視野をこじ開けるということをしらないでは、世界が見えるようにはならない、そんな見えにくい時代に入って、ずいぶん時間が経ったような気がする。

(中略)

わたしたちは、視野に入っているはずなのに見えていないもの、見ようとしなくても、言葉で、あるいはもつと別の表現で、見えるようにしなければならぬ。

想像力というと、よく論理的な思考と対比される。空想や夢想はそうなのだろうが、想像力はちがう。眼の前にあるものを足がかりとして、眼の前に現われていない出来事や過程をのびやかに想像すること、あるいはそれを論理的に問いつめてゆくこと。これは、科学や宗教や芸術、あるいは政治や倫理や(他人への)思いやり、それらのいずれにおいても根のところでは働いているはずの、わたしたちの力だ。それがいまひどく萎縮している。

流通する分かりやすい言葉、肌合いのいいイメージの渦に呑み込まれてはいけぬ。油断してはならないとおもう。

近頃の子どもはずいぶん忙しい想いをしているようにみえる。塾もあれば、お気に入りの連続テレビ番組もある。携帯電話でのつきあいもある。退屈しているひまもな

いことだろう。

わたしが子どもの頃は、一日がとても長かった。で、すぐに退屈する。が、ひとはところが退屈すると、からだのほうが先にむずむずしてくる。エネルギーが余っている子どもならよいそうだろう。だから子どもは、玩具やゲームソフトがなくとも、紙や空き瓶やかんな屑といった手近にある物で遊び道具を作りだし、ルールもじぶんたちで作って、遊ぶものだ。端から見ているとどんなゲームなのかはよくわからないが、彼らの頭のなかにはルールがきちつとセットされているのだろう。想像力が物にいのちを吹き込み、大人の眼にはどんな取るに足りないものが、子どもたちには大きな意味を持つ。

想像力というと、まずはファンタジーとかファンシー、つまりは空想の物語が思い浮かぶ。が、想像力とはいまここにはないものをおもうことだとすると、それは人間のもっとも基本的な能力であるといえる。未来への希望や期待も、過去の記憶も、まだないもの、もうないものを現在にたぐり寄せるという意味では、想像のはたらきである。

傍線²

このはたらきが、たとえば科学を生みだす。科学的探究とは、物の衝突や落下、樹が芽をふきやがて枯れる様子、気象の変化、物の組成など、眼に見える物や出来事の背後に、眼には見えないある法則や構造を読みとろうとするいとなみだからだ。与えられたもの、眼に見えるもので満足していたら、科学は始まらない。

出題の意図、評価のポイント、受験生へのメッセージ

➤ 描 写

◆出題の意図

- ・対象物を配置し、いかに画面上に構成することができるかを問いました。
- ・正確に形や色を捉えるという描写力が、どれほど習得できているかを問いました。
- ・硬さ、柔らかさ、張り、透明感等の質感表現ができているかを問いました。

◇評価のポイント

以下の項目に留意し、描写力を総合的に評価しました。

- ・対象物の構成（対象物をバランスよく配置することができるか。）
- ・画面の構図（配置した対象物を効果的に画面に収めることができるか。）
- ・形態の把握（対象物の形や大きさを正しく描くことができるか。）
- ・量感の把握（対象物の量感を捉えて描くことができるか。）
- ・空間の把握（対象物の間の距離や関係を正しく描くことができるか。）
- ・明暗の把握（対象物の陰影、固有色の明暗を正しく描くことができるか。）
- ・質感の把握（対象物の素材感を描きわけることができるか。）
- ・画材と技法の理解（鉛筆、紙、消しゴムなどの描画材を生かしているか。）

■受験生へのメッセージ

今回の対象物は、身近で普段目にしているような基本的なものが中心です。

まず、りんごと玉ねぎは、大きくみると球体ですが、自然物特有の有機的な形を捉えなければいけません。また、紙袋は、膨らませたり畳んだり、工夫次第で柔らかさが生まれたり、シャープな印象を持たせたりと、構図のあり方が大きく変化します。組み立て式透明ケースは人工物特有のエッジの強さに加え、透明な質も兼ね備えており、形や色味に注意を払いながら描き進めていく必要があります。さらに、他の対象物と組み合わせることで、より透明の面白い表現が引き出せる可能性もあります。

描きこみや、同一平面上に対象物が描かれていることも大切なポイントですが、描き始める前、構図を組み始める前に、それぞれの対象物の形態や特徴をしっかりと観察した上で、明確な構成のプランを練ることをまずは大切にしましょう。

➤ 色 彩

◆出題の意図

- ・与えられたテーマから発想し二つの画面を関連させ、色彩表現ができるかを問いました。
- ・指定された色面を設定することで、受験生自身のもつ色彩に対する多様な感覚を求めました。
- ・二つの解答画面に対して二分割したモチーフを配置する構成力を問いました。

◇評価のポイント

以下の項目に留意し、色彩表現力を総合的に評価しました。

- ・テーマ「対照」に沿って、豊かな色彩表現ができているか。
- ・配置したモチーフを効果的に二つの画面に収め、構成することができているか。
- ・色の組み合わせを生かして調和と対比を自在に表現することができているか。
- ・画材と技法を理解し、丁寧に彩色することができているか。
- ・出題の条件に対応し、表現できているか。

■受験生へのメッセージ

- ・自身のもつ色数を増やしておきましょう。混色にも積極的にチャレンジし、得意な色を増やしておきましょう。
- ・色と色の美しい組み合わせや、それを効果的に見せる構成を多く見つけておきましょう。
- ・日常的に身の回りにあるいろいろなものを観察する目を養いましょう。
- ・画材の特性をよく理解しておきましょう。

➤ 立 体

◆出題の意図

テーマである陰影を色と形のどちらかだけでなく両方を扱って表現して欲しいと思い、出題しました。形に光が当たればそこには陰影が自然と生まれますが、白・グレー・黒・銀の厚紙という異なる明度をもった素材を立体の材料として使うことで、光の方向を自分で想定したり、陰影を強調・反転させたり、反射や映り込みを利用したりと、形と陰影を意識した解答を求めました。

◇評価のポイント

白・グレー・黒・銀の色（明度）の材料の違いと、厚紙という素材の特性を生かして、形と陰影を意識した解答ができているか。

■受験生へのメッセージ

立体は立ち上がる形の美しさと同時に、その立体が内包・外包する空間をつくり出します。その空間は、空気と言い換えることができます。空気は触ることはできませんが、「光」や「色」といった自然現象を注意深く観察するとその姿が見えてくるでしょう。また同じ立体でも光の当たり方や視点によって様々な表情をみせてくれます。日常の中で、物体の形や構造、素材や表情、物体が作り出す空間、光の変化などをよく観察し、気づきを大切にしましょう。

素材には「厚さ」や「固さ」、「重さ」などといった様々な性質があります。厚紙はどんな素材ですか、曲げやすいですか、どんな形が作りやすいですか。素材の特性を理解して効果的に立体をつくることを意識しましょう。

➤ 小論文

◆出題の意図

設問 1

他者の書いた論理的な文章を読んでその内容を的確に理解する文章読解力、ならびにその内容を要約として再提示する言語表現能力を問いました。

設問 2

問題文に出てくる事例や内容を的確にとらえ、自分自身が日々見聞きしていると感じていることを表現する能力を問いました。

設問 3

「芸術的探究」という言葉について自身の考えを述べるという設問で、与えられたテーマと素材を生かして自身の考えを表現する応用的な文章表現力を問いました。

◇評価のポイント

設問 1

極めて標準的な要約問題で、まずは内容を的確に把握し、過不足なくまとめられているかどうか、そのうえで、要約文が単独で読んでも理解しやすい文章になっているかという観点から評価しました。

設問 2

論点がずれていないか、意図するところが伝えられる文章にまとめられているかという観点から評価しました。

設問 3

設問 2 と同様に、論点がずれていないか、意図するところが伝えられる文章にまとめられているかという観点から評価しました。そのうえで、説得をもたせる例証や論理展開などの手続きの観点からも評価しました。

■受験生へのメッセージ

総合芸術学科で研究対象とする作品や創造行為を理解するためには、その在り方やそれに関わる多様な考え方を受け入れた上で自身の考えを形成していく必要があります。そのため小論文試験においては、問題を的確に読み解き、根拠のある事例に基づき、自らの考えを伝えていくことを求めています。日頃から引き出しを豊かにしていきましょう。

2021 年 4 月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<https://www.kcua.ac.jp>